

3. COC 5年間の今までとこれから

1 COC 5年間の振り返り

COC事業推進責任者 古川修



大学COC事業は、本学の建学の精神である「社会に学び社会に貢献する」技術者教育の実践の絶好の機会となりました。まずは、この事業に応募する前から本学で「まちづくり」、「ものづくり」において地域連携の研究教育活動を続けてきていた先生方をピックアップして、それぞれをCOCプロジェクトとして事業を推進することにいたしました。他学のCOC事業の取り組みに多くみられるような、あらたな全学必修の共通科目を作ったりするトップダウンの施策は敢えてとらず、それぞれの先生方のプロジェクトの自主性を尊重したボトムアップの枠組みで進めたことが、本学のCOC事業の一つの特徴となっています。

カリキュラムについては、既存のものを変えずに、その中で地域志向科目となるものについて地域志向ラベル付けによる「見える化」を行い、実施する教職員の負荷を少なくしつつ、最大限の教育・研究・社会貢献の成果を挙げられるように、環境整備を行いました。特に地域志向科目でもPBLを主体とした教育が中心となり、そのなかで学生達が地域の課題を抽出し、その解決をグループワークで計るという、学生自身が考える実践教育を実施しています。このPBL教育によって、学生達は社会に出たあとも、自ら考えて課題解決を図る能力を身につけることができます。このことは、大宮キャンパスで私も担当した演習科目の履修生たちに、社会人基礎力を測るためのPROG試験を実施した結果、履修後のコンピテンシーが大きく向上することから、実証されています。「教育とは知識を教えることではなく、考える力をつけさせることだ」という、アインシュタインの言葉をCOC事業の教育活動のなかでまさに実践していることになり、その成果が十分に挙げられたといえます。

また、これらのCOC事業による教育活動は、さいたま市、埼玉県、江東区、港区、中央区、墨田区などの地域行政や企業、市民の方々と連携することによって、社会に直接貢献する体験を学生達が実践することになります。地域行政や企業、市民の方々からも、学生達のグループ活動結果によって地域の課題解決に大きく前進したという声が多く聴こえております。本学は、COC事業のなかでは数少ない首都圏の大学として採択されましたが、その特徴を活かした地域社会貢献の成果を示すことができ、とても嬉しく感じます。そして、これも研究・教育・社会貢献を三位一体として、学生達を主体として同時に回していく当初からの枠組みが最大限生きた結果と考えられます。連携にご協力いただいた地域行政・地域の企業・区民・市民の方々に感謝し、今後のさらなる連携の継続と強化を期待いたします。

大学COC事業の5か年計画は今年度で終わりとなりますが、大学と地域の連携体制はそのまま継続して、さらなる教育・研究・社会貢献を図っていくことになっています。COC事業活動で培ってきた、教育の枠組みを継続して、本学が首都圏の地域のなかの「地(知)の拠点」として、さらなる成果をあげていくことを願います。

地域共創センター部門長(豊洲) 志村秀明



当初7プロジェクトでスタートした本事業は、その後毎年度20プロジェクト程度が活動してきました。各専門分野の教員がプロジェクトチームを組織して学生と共に取り組むというボトムアップの仕組みは、大変上手く機能したと言え、「まちづくり」と「ものづくり」の人材を数多く育ててきました。また本事業を通じて、自治体や市民との連携活動が増えたことが大きな成果と言えます。江東区での運河や水辺の活用、中央区やさいたま市でのコミュニティ強化、墨田区での防災活動や地域活性化の活動などが挙げられます。特に東京湾岸地域では、2020年の東京五輪大会にむけて連携活動が加速すると予想され、地域共創センターも益々活発に機能することと思います。

地域共創センター部門長(大宮) 中村仁



大宮キャンパスが立地する埼玉県・さいたま市では、居住、産業、商業、交通などの面で多様な課題を抱えています。本学のCOCプロジェクトのうち、埼玉県・さいたま市を対象としたプロジェクトは5年間で13件に及びます。それぞれのプロジェクトが地域の課題に対して多様な活動を展開し、大きな成果を挙げることができました。地域との連携はもとより、産学官民の連携、教員間の連携、グローバルな連携、「まちづくり」と「ものづくり」の連携など、様々な連携が有機的に進化しました。こうして培われた各種の連携は、今後のさらなる活動展開において大きな礎になるものと確信しています。

地域共創センター部門長(芝浦) 前田英寿



芝浦キャンパスのある東京都港区には、高密度化と人口増、国際化と歴史文化、環境保全と防災減災など、都心特有の課題があります。本学COC事業は、歴史的建造物や運河に着目した建築設計演習、金型や表面加工分野における企業との共同研究、防災用のプロダクト開発など、「まちづくり」と「ものづくり」両面で地域と連携して進めています。地元を題材にした演習科目を留学生が履修したり、海外から協定校を招いてワークショップを開催するなど、国際交流の要素も取り入れています。港区役所と各地区総合支所、地元の町会や商店会、関連する企業の皆様に御理解・御協力をいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

連携自治体からのコメント

江東区

江東区は人口が51万人を超え、2020年の東京オリンピック・パラリンピックでは多くの競技会場が整備されるなど、さらなる発展を続けております。本区と芝浦工業大学とは、平成19年に包括協定を取り交わして以来、まちづくり・ものづくりの両面において、連携を図り、共に活動して参りました。COC事業では本区の立地条件をいかし、様々なプロジェクトが展開されております。今後も区と大学が一層の連携・協力体制を整え、地域の課題を共に解決していくことを願っております。



江東区長
山崎孝明氏

港区

港区と芝浦工業大学は、平成21年に締結した連携協力に関する基本協定に基づき、教育・産業振興・まちづくりなどの分野において、様々な活動を行っています。

港区の人口は、昨年、54年ぶりに25万人を回復し、今後も全ての世代で増加が続く見通しです。JRや日比谷線の新駅設置、リニア中央新幹線品川駅の開業などを控え、各地で活気にあふれ、魅力あるまちづくりが進められています。

「まち」の姿が大きく変わる今だからこそ、新しい住民や若い世代を取り込んだ地域コミュニティの活性化に向けて、大学の地域活動が果たす役割は大きくなっています。これまでの協力関係をより強固なものとし、さらなる地域の魅力創出に向けた活動に期待しています。



港区長
武井雅昭氏

埼玉県

埼玉県と芝浦工業大学は、本県が展開する「先端産業創造プロジェクト」をはじめ、様々な分野で連携しております。また、平成28年には包括連携協定を結び、更なる相互協力と連携を図っています。

貴学のCOC事業は最終年度を迎えましたが、将来にわたり地域と大学が連携して、「まちづくり」や「ものづくり」を進めていくことが重要です。

今後も、創立以来90年にわたって蓄積した「知」の資源と、教職員及び学生の皆様の「人」の資源を活用し、本県とともに持続的な地域連携に取り組まれることを期待しています。



埼玉県知事
上田清司氏

さいたま市

芝浦工業大学には、さいたま市の重点戦略である「イノベーションする都市さいたま」の創造に向け、産学官連携のもと、様々な分野において協働していただいております。

その成果の一つとして、平成27年4月にさいたま市初の「イノベーションに関する連携協定」を締結し、地域経済の活性化をより加速させることに寄与していただいております。

さいたま市では、交通の結節点である優位性をもとに、東日本の中枢都市づくりを加速させる取り組みが進められており、「知の拠点」として貴学の役割はさらに重要なものになると考えております。5年間のCOC事業にて獲得した成果とともに、今後もよきパートナーとして、幅広い連携と取り組みに期待しております。



さいたま市長
清水勇人氏

参加者からのコメント

【豊洲地区運河ルネサンス協議会会長/渡辺様】

人口増加や市場移転など大きな変化の中にある豊洲のまちにとって、運河ルネサンス協議会や水彩まつりなど、新旧住民や商店街、大学などが一体となった活動は、水辺を活かしたコミュニティづくりに役立っています。学生の皆さんにとっても机上では得られない学びの場ですので、益々の連携を期待しています。

【参加学生(修士2年)/下山未来】

私たちが研究しているロボットを地域の方々に見ていただくことで、実際のロボットの機能と地域の人々の理想との差を学び、研究に活かすことができました。また、私たちにとっては小さく、簡単な機能でも、役に立つ、驚く、楽しいといった意見を聞くことができ、ロボット研究の価値を感じることができました。

【芝浦海岸町会商店会連絡協議会会長/中島様】

芝浦工業大学と地域の係わりは数年前から始まりましたが、大学と地域の係わり方や密度については、まだ万全とは言い難い状況にあると思われまます。大学側のより積極的な地域行事への参加を望むと共に、まちづくりや防災に関わるコミュニケーション(ハードとソフトの融合)の必要性を感じます。

【参加学生(修士2年)/田口真也】

芝浦アーバンデザイン・スクールの様々なプロジェクトを通して、本学に関係のある地域の課題や将来像を改めて知り、学びました。それらのプロジェクトでは地域の人と触れ合い、関係者や地域住民の方に発表・意見交換を行ってきました。この経験から人前での発表・意見交換が滞りなくこなせるようになりました。

【栄精機製作所/中島様】

学生の斬新なアイデアと、弊社のものづくり技術力のコラボによるオリジナル製品開発を目標に、連携を始めてから5年になります。その間、学生の新鮮な感性に目を見張り、教授陣のDRでの厳しい指摘を受けながら、半年後には大いなる変貌を遂げた完成度の高さに驚かされ続けました。今後も期待しています。

【参加学生(OB)/福本泰章】

学生のうちから企業人の考え方に触れることができたことは、とても良い経験となりました。また、地域の課題について、産学官連携チームで解決に向け取り組んだことで、就活において他者と違ったアピールをすることができました。さらに、自分が将来どのような職業に就きたいかも明確化することができて良かったです。

【さいたま市産業創造財団/福田様】

地域若手農家のICT活用による生産性向上に、目覚ましい効果がありました。現場で採用された提案も多く、ICT活用の進んだ農家グループとしてメディアの取材を受けるほど、農家の意識も変わりました。今後も是非、こういった事業を続けて欲しいと思います。

【参加学生(修士2年)/三城摩周】

私はプロジェクト参加を通じて、大学内の授業だけでは決して経験することができなかった農業現場の現状を学ぶことができました。またプロジェクト内容はそのまま修士研究として実社会に貢献できる研究を行うことができました。就職活動においてもプロジェクトの成果が内定獲得の役に立ったと強く思っています。

2 COC活動のこれから

地域連携の持続と展開

■ COC 5年間の成果

本学COC事業では様々な取り組みを行い、具体的な成果は、達成目標の進捗状況（前述）に見られる通りだが、その本質的な成果は、「地域ぐるみのひとつづくり」の場（大学と地域がリソースを相互提供して将来の人材を育成していく好循環）ができつつあることである。この循環の定着は非常に難しい取り組みだが、地域の関係者の協力を得ながら、よいスタートを切れたと考えている。

大学COC事業を通し、本学では、「地域志向科目の全学的普及」として、在学中に最低1度は地域を考える機会を提供する教育カリキュラムの改革を行った。また、「COCプロジェクト」として、教育・研究・社会貢献を一体的に、地域の関係者と共に、実践的に推進した。この様な活動を組織的に支えるため「地域共創センター」も設置した。

この様な取り組みを通し、研究では、地域の企業やコミュニティに関わる共同研究が着実に増加している。また、教育では、PBLをはじめとした地域志向科目において、地域の方から様々な課題の提供、実務面からの助言をいただいている。社会貢献においても、本学主催・地域主催イベントで様々な地域と協働している。その結果、大学と地域が触れ合う機会が格段に増加し、「顔の見える関係」が構築されると共に、大学の教育、研究の幅が大きく広がった。

■ 成果の持続と展開

今後、持続可能性の担保が一番の課題となる。PBLや共同研究、イベント、協議会など、様々な場を通じて、具体的な「対話」をボトムアップで積み重ね、「実学」としての地域連携を継続していきたいと考えている。

そのような教員・学生の活動を支えるため、大学としても、ベースとなる学内資金の継続、大学と地域をつなぐコーディネーターの配置など、COCで構築した仕組みを継続していく。

さらに、本学は首都圏に立地する大学という特徴を持つことから、COCを通して得た経験・知見を全国に広げることも使命と考えている。COCプロジェクトでも首都圏と地方を結ぶ活動を行っており、2015年度からは「COC+」として栃木県を対象に活動を行っている。学生が地方の課題を知るきっかけづくり、PBLを通したひとつづくりの枠組みを地方でも展開していく。

■ 地域連携の将来像 「共に学び、共に生きる」

最終的な大学と地域の関係としては、情報の受発信や、まちに出る「連携（連なる、携わる）」から、更に発展し、「地域と大学と」ではなくて「地域も大学も」共に存在する状態が理想であり、地域連携の先にある姿と考える。

時間はかかると思われるが、大学と地域と一緒に様々な取り組みを推進していく中で、将来の財産である人材を育成していきたいと考えている。

地域関係者の皆さまにおかれましては、引き続き大学の教育研究にご理解をいただくと共に、地域のニーズや課題を大学に寄せ、「地域で人をつくる場」を提供いただきたく、改めてお願い申し上げます。

■ 芝浦工業大学の地域連携(今まで/これから)



■ 地域と大学が共に成長するエコスパイラル



COC+での連携

芝浦工業大学は、大学COC事業で培った地域連携の経験を地方創生にも展開していくための試みとして、2015年度より、宇都宮大学と連携した「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に参加している。

■ 宇都宮大学COC+「輝くとちぎをリードする人材育成地元定着推進事業」

大学・高専、栃木県、地元企業・団体と連携し、「ものづくり県とちぎ」「フードバレー とちぎ」の特徴に焦点をあてた人材育成、人材の定着、産業の活性化を推進することにより、若者層の地元就職者数の増加を図り人口構造の若返りによる地域創生を進めている。

事業の概念は右図に示すとおり、宇都宮大学が中心となり、首都圏の連携校、栃木県庁、県内企業などと連携することにより、県内の産業の活性化、人材の地元定着を図ろうというものである。

また、本事業の連携校は、宇都宮大学が主催する企業見学会、企業との技術交流会に参加することにより、就職やUIJターンにおいて協働している。

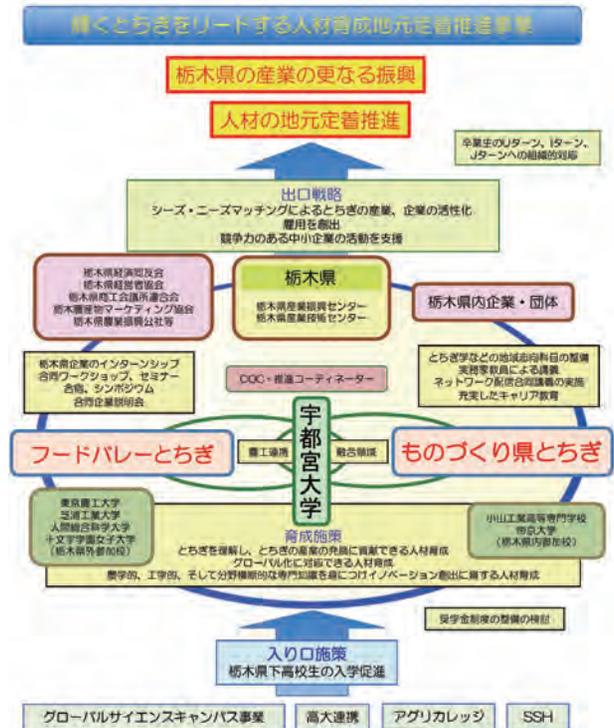
■ 芝浦工業大学による連携の取り組み

宇都宮大学が主催する企業技術交流会に学生が参加して、県内企業との交流の場を持った(写真下)。

栃木県出身学生へのアンケートの結果、UIJターン支援には低学年のうちから就職情報を提供すると共に、地元優良企業とふれあう機会を増やしていくことが効果的と判明した。今後は、校友会やキャリアサポート課とも協力して、本学OBが役員の県内優良企業を企業見学の対象に加えていただくなど、学生にとって更に魅力的な企業交流の場を増やしたいと考えている。

また、11カ国78人が共に学ぶ国際産学地域連携PBLにおいて、栃木県庁観光交流課より「外国人観光客への効率的な観光PR方法と、受入側のおもてなしの工夫」という課題をいただき、全12班が栃木県日光・那須地区で体験学習を実施し、観光促進ビデオを作成してグローバル視点から栃木県の魅力を提案した(写真右上・下)。

COCで培ったPBLの方法論を栃木県に展開しながら、宇都宮大学との大学同士、学生同士の連携を益々強化させたいと考えている。



COC主要活動年表

2013年度

月	日	活動内容	連携/活動地域	プロジェクト
9月	—	平成25年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」に採択	江東区、港区、 埼玉県、さいたま市	事務局
10月	—	プロジェクト公募審査を経て、7プロジェクト活動開始	—	全PJ
10月	17	江東区長を交え、連携強化について協議	江東区	事務局
10月	23	木材流通業の実態把握のため東京中央木材市場見学	江東区	02
11月	—	ロボット技術の拠点として、ロボティクスコンソーシアムの基盤整備・SIT研究スクウェア、国際ロボット学会見学会、展示会出展等	江東区	01
11月	18	江東区経済課を交え、深川図書館を題材にした課題発表会開催	江東区	02
11月	21	芝浦アーバンデザイン・スクールプロジェクトでの課題として、協働会館見学	港区	05
11月	28	芝浦アーバンデザイン・スクール公開講座第1回開催	港区	05
12月	5	芝浦アーバンデザイン・スクール公開講座第2回開催	港区	05
12月	12	芝浦アーバンデザイン・スクール公開講座第3回開催	港区	05
12月	13	港区経済振興課と次年度活動について協議	港区	事務局
1月	14日	金沢工業大学(COC採択校)との交流会	—	事務局
1月	15日	上尾市市団地内に「サテライトラボ上尾」開設	上尾市	06
1月	20日~25日	芝浦アーバンデザイン・スクール研究報告週間	港区	05
1月	21日	地域分析&地域設計演習成果発表会	江東区	03
1月	22日	さいたま市長を交え、産学連携PBL最終報告会	さいたま市	07
1月	23日~24日	鳥取大学・鳥根大学(ともにCOC採択校)との交流会	—	事務局
1月	25日	港区芝浦総合支所を交え、芝浦アーバンデザイン・スクール発表会	港区	05
1月	25日	COC事業キックオフイベントとして、第19回東京ベイエリア産学官連携シンポジウム「木の魅力を伝える」開催	江東区、港区	02
1月	26日	フォーラム「最先端を親子で学ぼう」開催	江東区	03
1月	29日	COC事業学内全体会議開催	—	全PJ
2月	—	さいたま市にあるNPOとの連携に向けたアンケート実施	さいたま市	06
2月	18日	ロボット技術によるシニア支援の実証実験	中央区	01
3月	—	COC事業説明用Webサイト開設	—	事務局
3月	8日	豊洲クルーズ&フォーラム実施	江東区	03

COCプロジェクト変遷

2013年度 COCPJ

PJ	PJ名称	PJ代表
01	ロボット技術による見守り・健康支援等スマートタウン構築	松日楽信人
02	木材流通加工業との連携による居住環境の改善	南一誠
03	内部河川・運河の活用とコミュニティ強化	志村秀明
04	材料・製造工程革新によるものづくりの国内回帰プロジェクト	戸澤幸一
05	芝浦アーバンデザイン・スクール	前田英寿
06	まちづくりコラボレーション～さいたまプロジェクト	中村仁
07	パーソナルモビリティ(低炭素交通)	古川修

2014年度 COCPJ

PJ	PJ名称	PJ代表
01	ロボット技術による見守り・健康支援等スマートタウン構築	松日楽信人
02	木材流通加工業との連携による居住環境の改善	南一誠
03	内部河川・運河の活用とコミュニティ強化	志村秀明
04	材料・製造工程革新によるものづくりの国内回帰プロジェクト	戸澤幸一
05	芝浦アーバンデザイン・スクール	前田英寿
06	まちづくりコラボレーション～さいたまプロジェクト	中村仁
07	低炭素パーソナルモビリティの開発	古川修
08	システム思考を用いた地域間連携型6次産業創成	山崎敦子
09	機械系ものづくり産業地域との連携による技術イノベーション創出のための実践教育	長谷川浩志
10	地域と医療に貢献するマイクロ・ナノ医工連携イノベーション	西川宏之
11	東京湾岸域における交通・都市プロジェクトの未解決計画を対象とした産官学共同PBL	岩倉成志

2015年度 COCPJ

PJ	PJ名称	PJ代表
01	ロボット技術による見守り・健康支援等スマートタウン構築	松日楽信人
02	木材業者との連携による居住環境の改善	南一誠
03	内部河川・運河の活用とコミュニティ強化	志村秀明
04	デザイン工学と経営学の両輪による地域人材の育成	戸澤幸一
05	芝浦アーバンデザイン・スクール	前田英寿
06	まちづくりコラボレーション～さいたまプロジェクト	作山康
07	低炭素パーソナルモビリティと移動情報ネットワークサービスの開発	古川修
08	システム思考を用いた地域間連携型農業支援	山崎敦子
09	機械系ものづくり産業地域との連携による技術イノベーション創出のための実践教育	長谷川浩志
10	マイクロ・ナノものづくり教育イノベーション	西川宏之
11	地域課題解決思考を通じた土木技術アクティブラーニング	岩倉成志
12	気候変動と地震災害に適切したレジリエントな地域環境システム	増田幸彦
13	ものづくり中小・大手メーカーとのマイクロテクスチャ技術教育	相澤龍彦
14	東京臨海地域における安心安全のまちづくりを推進するロードマップの作成	佐藤宏亮
15	インバウンドビジネスを創出するグローバル・ローカリゼーションプロジェクト	村上嘉代子
16	中央卸売市場移転事業豊洲サイバーエンボリウムプロジェクト	越阪節奈緒美
17	地域コミュニティにおける生活コミュニケーション活性化技術～人に優しいヒューマン・マシン対話の実現～	間野一則
18	(仮称)芝浦まちづくりセンター	西沢大良
19	地域密着型の技術系中小企業による新製品開発の支援プロジェクト	平田貞代

2016年度 COCPJ

PJ	PJ名称	PJ代表
01	ロボット技術による見守り・健康支援等スマートタウン構築	松日楽信人
02	木材業者との連携による居住環境の改善	南一誠
03	内部河川・運河の活用とコミュニティ強化	志村秀明
04	都心の災害を考えるワークショップ実施と展覧会の開催	橋田規子
05	芝浦アーバンデザイン・スクール	前田英寿
06	まちづくりコラボレーション～さいたまプロジェクト	作山康
07	低炭素パーソナルモビリティと移動情報ネットワークサービスの開発	古川修
08	システム思考を用いた地域間連携型農業支援	山崎敦子
09	機械系ものづくり産業地域との連携による技術イノベーション創出のための実践教育	長谷川浩志
10	マイクロ・ナノものづくり教育イノベーション	西川宏之
11	地域課題解決思考を通じた土木技術アクティブラーニング	岩倉成志
12	気候変動と地震災害に適切したレジリエントな地域環境システム	増田幸彦
13	ものづくり中小・大手メーカーとのマイクロテクスチャ技術教育	相澤龍彦
14	東京臨海地域における安心安全の都市づくりを推進するロードマップの作成	佐藤宏亮
15	インバウンドビジネスを創出するグローバル・ローカリゼーションプロジェクト	村上嘉代子
16	中央卸売市場移転事業 豊洲サイバーエンボリウムプロジェクト	越阪節奈緒美
17	地域コミュニティにおける生活コミュニケーション活性化技術～人に優しいヒューマン・マシン対話の実現～	間野一則
18	地域密着型の技術系中小企業による新製品開発の支援プロジェクト	平田貞代
19	豊洲新市場での物流に関する連携	伊東敏夫
20	豊洲ユニバーサルデザイン探検隊～みんなにやさしい豊洲の街を目指して～	中村広幸

2017年度 COCPJ

PJ	PJ名称	PJ代表
01	ロボット技術による見守り・健康支援等スマートタウン構築	松日楽信人
02	木材業者との連携による居住環境の改善	南一誠
03	内部河川・運河の活用とコミュニティ強化	志村秀明
04	都心の災害を考えるワークショップ実施と展覧会の開催	橋田規子
05	芝浦アーバンデザイン・スクール	前田英寿
06	まちづくりコラボレーション～さいたまプロジェクト	作山康
07	低炭素パーソナルモビリティと移動情報ネットワークサービスの開発	古川修
08	システム思考を用いた地域間連携型農業支援	山崎敦子
09	機械系ものづくり産業地域との連携による技術イノベーション創出のための実践教育	長谷川浩志
10	地域課題解決思考を通じた土木技術アクティブラーニング	岩倉成志
11	気候変動と地震災害に適切したレジリエントな地域環境システム	増田幸彦
12	ものづくり中小・大手メーカーとのマイクロテクスチャ技術教育	相澤龍彦
13	東京臨海地域における安心安全の都市づくりを推進するロードマップの作成	佐藤宏亮
14	インバウンドビジネスを創出するグローバル・ローカリゼーションプロジェクト	村上嘉代子
15	地域コミュニティにおける生活コミュニケーション活性化技術～人に優しいヒューマン・マシン対話の実現～	間野一則
16	豊洲、大宮地区の車載センサを応用した交通安全対策活動	伊東敏夫
17	豊洲ユニバーサルデザイン探検隊～みんなにやさしい豊洲の街を目指して～	中村広幸
18	学生のサポートを生かしたロコモ予防のためのシニア向け運動教室	石崎聡之

2014年度

月	日	活動内容	連携/活動地域	プロジェクト
4月	3/28~4/5	COC認知度調査アンケートを全学的に実施	—	事務局
	17~18	11プロジェクト採択、プロジェクト代表者会議開催	—	全PJ
	19~20	社会実験イベント「船カフェ」	江東区	03
	26	ベイエリアおもてなしロボット研究会 キックオフシンポジウム開催	江東区 ほか	01
5月	29	「プロジェクト演習4」公開講評会	港区	05
	20、8/20	アーバンデザイン・スクール特別講義	港区	05
	30~6/1	珠洲市現地視察・PBL	珠洲市	08
6月	5/31~6/14	「プロジェクト演習4」展覧会	港区	05
	3	プロジェクト代表者会議	—	全PJ
	15	特別講義&ワークショップ「金属製恐竜やカブトムシをつくる」	港区	04
	26	アーバンデザイン・スクール公開講座	港区	05
7月	30	特別講義「校倉に学ぶ」	江東区	02
	5	公開講座「2020年のおもてなし」(クルーズ)	江東区	03
	12	COC全学交流会	—	全PJ
8月	15	「港区発!最新グローバルビジネス」講演会	港区	04
	21~29	アーバンデザイン・スクール日韓合同ワークショップ	港区	05
	22	アーバンデザイン・スクール公開講座	港区	05
9月	30	サテライトラボ上尾での見守りロボットデモ	上尾市	01,06
	9	「芝浦ハッケン展2014」	港区、江東区、墨田区	全PJ
	12、18	プロジェクト代表者会議	—	全PJ
	20	社会実験イベント「豊洲水彩まつり」	江東区	03
	25	さいたま市公共施設マネジメント・ワークショップ	さいたま市	03
	21	特別講義&ワークショップ「環境にやさしい植物樹脂プラモデルづくり」	港区	03
	27~28	「芝浦運河祭り」出展	港区	04
	27	社会実験イベント「お台場Eポート防災交流大会」	港区	03,05
28	社会実験イベント「江東水彩フェスティバル」	江東区	03	
10月	2、9、16	2014年度COCプロジェクト中間レビュー	—	全PJ
	3	アーバンデザイン・スクール公開講座	港区	05
	7~8	港区企業間連携支援事業「ものづくり・IT×先端デザイン産学連携交流会in芝浦工業大学」	港区	04
	15~17	Japan Robot Week 2014にロボットネットワークデモ出展	—	03,05,06
	19	特別講義&ワークショップ「動力のしくみを学ぼう」	江東区	01
	23	さいたま市公共施設マネジメント・ワークショップ	港区	04
	24	地域連携PBL「建築・地域プロジェクト特論」発表会・パネル展示(まちラボおおみや)	さいたま市	03
	25、26	南会津町の集落再生活動	南会津町	06
31~11/2	芝浦祭での南会津町物産展	南会津町	03	
11月	8、13、27、28	アーバンデザイン・スクール特別講義	港区	05
	15	「建築設計演習Ⅲ」成果講評会	江東区	02
	10、17	特別講義(建築構法、ストックマネジメント)	江東区	02
	13~14	COC採択校視察(金沢大学、金沢工業大学、富山県立大学)	—	事務局
	26	「企業経営のためのビッグデータ活用」セミナー	港区	04
	29	レクチャー & クルーズ「豊洲のクルーズ観光について考える」	江東区	03
12月	30	さいたま市公共施設マネジメント・ワークショップ	さいたま市	03
	1、15	特別講義(住宅インフィルリフォーム、公共施設のストック活用と運営)	江東区	02
	5	月島地区での見守りロボットデモ	中央区	01,03
	5、19	アーバンデザイン・スクール特別講義	港区	05
	6	新木場木まつり冬2014講演「海外の伝統木造建築」	江東区	02
	8	ロボットシンポジウム2014Fall	江東区	01
1月	18	地域連携PBL「地域計画演習」発表会	江東区	11
	17	江東区景観形成住民団体との意見交換会	江東区	04
	14	地域連携PBL「建設工学演習・プランニング」発表会(サテライトラボ上尾)	上尾市	06
	14	月島地区での見守りロボットデモ	中央区	01,03
	16~29	「プロジェクト演習8」成果展覧会	港区	05
	20、21	プロジェクト代表者会議	—	全PJ
2月	21	「産学・地域連携PBL」公開発表会	埼玉県、さいたま市	07,08,09
	22	さいたま市公共施設マネジメント・ワークショップ	さいたま市	03
	24	シンポジウム「大学とまちづくり〜芝浦工業大学におけるサービス・ラーニングの可能性」	江東区、港区、埼玉県、さいたま市	03,05,06,11
	26	地域連携PBL「環境政策演習」発表会	さいたま市	06
3月	24	マイクロナプロジェクト ワークショップ	江東区	10
	26	ベイエリアおもてなしロボット研究会講習会・講演会	港区、江東区	01
3月	5	「建築・地域プロジェクト特論」「環境政策演習」パネル展示(まちラボおおみや)	上尾市	06
	14	さいたま市公共施設マネジメント・ワークショップ	さいたま市	03
	16	COC学生成果報告会	—	全PJ
	21	港区芝浦港南地区総合支所主催「365DAYS」に出展	港区	05

COC主要活動年表

2015年度

月	日	活動内容	連携/活動地域	プロジェクト
4月	6	さいたま市と「イノベーション協定」を締結	さいたま市	事務局
	—	プロジェクト公募審査を経て19プロジェクト活動を開始	—	全PJ
	16~22	MAKE ALTERNATIVE TOWNに港区芝浦港南地区のジオラマ模型を出展	港区	18
5月	29	International Senior Project Conference 2015にて「農業支援システムプロトタイプ開発」を発表	さいたま市	08
6月	1	プロジェクト代表者会議(10/19を含めて2回)を開催	—	全PJ
	3	電子情報システム総論にて企業技術の体験学習を実施	中央区	19
	5~7	「船カフェ」を大学開放DAY!、ぎよぎよとカメラと連携して開催	江東区	03
	13~21	建築学科設計演習・ゼミナール作品展・公開講習会を深川東京モダン館で開催	江東区	03
	19	芝2丁目商店街活性化フィールドワークを開催	港区	04
7月	5,19	春岡小学校にて「FACE TO FENCE」Part2～想いをつなぐ～を開催	さいたま市	06
	24	豊洲新市場の活性化、見学ツアーの提案を東京都中央卸売市場へプレゼンテーションを実施	江東区、東京都	16
	24	「システム工学特別演習(PBL)」最終報告会を実施	さいたま市、川口市、東京都ほか	07,08,09,15,16,17
8月	3~12/14	東日本金属株式会社にて調査と実験の課題解決プロセスを実施	墨田区	19
	24	大宮駅東口で市民参加型の熱中症リスク発見ツアーを実施	さいたま市	12
9月	9	交通事故ゼロを目指す将来のアクティブセイフティに関する国際シンポジウム FAST-zero 2015にて学生が二輪車転倒防止システムを発表	さいたま市	07
	17	土木工学科「応用統計学」で埼玉県(県土整備部・都市整備部)連携講義を実施	さいたま市	11
	24	10/20「都市整備」、11/18「水工学」、11/19「応用統計学」、1/19「土木情報処理」でも連携講義を実施	—	—
	27~28	日本機械学会設計工学・システム部門D&Sコンテストにて学生が段差乗り越え車椅子で最優秀賞を受賞	川口市	09
10月	2	芝浦運河まつりに芝浦海岸地区の都市模型を出展	港区	05
	2	COC FD/SD講演会、全PJ学的普及促進のため教員にCOC活動を紹介	—	事務局
	10	地域共創シンポジウム 大学とまちづくり・ものづくり(江東区長講演、パネルディスカッション、ポスターセッション) ベイエリアおもてなしロボット研究会セミナー/電界誘起マイクロバブルメス応用技術研究会	江東区、港区、埼玉県、さいたま市ほか	全PJ 01 10
	15~17	諏訪メッセにてマイクロテクスチャのポスター展示、製品展示	港区、大田区	13
	20~23	「月島路地マップ」(英語版)をWalk21シンポジウムで学生が発表	中央区	03
	25~3	「都心部の災害を考える」をテーマに制作した土のうを渋谷のタモコ展に出展	港区	04
	29	さいたま市との連携体制強化に向けた検討会を開催	さいたま市	事務局
11月	2	先進モビリティコンソーシアム秋の研究報告会を開催	—	07
	11	埼玉県職員をお招きし地域の課題を題材とした特別授業を実施	埼玉県	12
	12	埼玉県と包括協定締結に向けて協議	埼玉県	事務局
	12	芝浦アーバンデザイン・スクール公開講座2015「城下町鶴岡の建築とまちづくり」を開催	港区	05
	14	「建築設計演習Ⅲ」成果講習会を開催、江東区役所職員による講習を実施	江東区	02
	14	芝浦百景(港区知生人育成プロジェクトと連携、12/19第2回実施)を開催	港区	05
	17	国際ワークショップ ASD-HR2015(ヒューマノイドロボットを用いた自閉症スペクトラム児の療育)にて、「Design of a Communication Promotion System with an Interactive Robot (Pepper) for Autistic Children」を発表	さいたま市	17
	18	E2Festa 2015 Capstone Design Fair国際セッションにて、「An Autistic Child Communication Promotion Tool Used by Pepper」を発表	さいたま市	17
	18~20	産業交流展にてアンケートロボットをデモ展示	江東区	01
	25	学生が段差乗り越え車椅子で2015年度 The Spirit of SIT賞を受賞	川口市	09
	26	「建築・地域プロジェクト特論」成果発表会を大宮駅東口協議会の例会で開催	さいたま市	06
26	江東区との連携体制強化に向けた検討会を実施(3/23を含めて2回)	江東区	事務局	
27	プロジェクトの研究結果を観光情報学会第12回研究発表会にて発表	さいたま市	15	
28	金沢大学との合同ミニシンポジウムに参加	さいたま市、石川県	08	
12月	2~5	国際ロボット展にてロボットを介したスタンラリー、カメラマンロボットのデモを実施	江東区	01
	6	社会人基礎力育成グランプリ2016関東地区大会で「農業支援システムプロトタイプ開発」を発表(準優秀賞)	さいたま市	08
	12~19	東京の水辺空間に関する国際建築・空間デザインワークショップを実施	港区	05
	17	地域連携PBL「地域計画演習」発表会を交通関係官公庁や企業参加型で開催	江東区	11
	18	さいたま市総合療育センター・ひまわり学園にて学生の臨床体験実施	さいたま市	17
1月	8	さいたま市観光国際課とこれまでの成果と今後の取り組みについて協議	さいたま市	15
	15	土木工学総合講義プレゼンテーション審査を地元住民参加型で開催	江東区	11
	20	マイクロナノ「工場見学ワークショップ」を実施	福島県	10
	20	地域連携PBL「建設工学演習・プランニング」サテライトラボ上尾で発表会	上尾市	06
	27	さいたま市経済局長を交えて、「産学・地域連携PBL」最終報告会を実施	さいたま市、川口市、東京都等	07,08,09,15,16,17
2月	27~29	ナノテク展2016にて、マイクロ・ナノコンソーシアムの研究成果を情報発信	江東区	10
	8	熊本大学との意見交換ヒアリングを実施	江東区	事務局
	17	ナノテク展フォローアップ・ワークショップ	江東区	10
	18	豊洲2・3丁目まちづくり協議会へ防災まちづくりに関して提案を実施	江東区	14
3月	27~28	COC/COC+全PJ国シンポジウム・ポスターセッション参加	—	事務局
	1	さいたま市パーソナルモビリティ普及研究会で研究状況を報告	さいたま市	07
	17	第2回COC学生成果報告会を実施	—	全PJ
	26	新木場木材業者とのシンポジウムを開催	江東区	02
	29	平成27年度COC事業外部評価委員会	—	全PJ

2016年度

月	日	活動内容	連携/活動地域	プロジェクト
4月	—	プロジェクト公募審査を経て20プロジェクト活動を開始	—	全PJ
5月	19	埼玉県庁と包括的連携協定を締結	埼玉県	事務局
	25	さいたま市の観光促進課題に関するさいたま市役所ヒアリング(12月21日にも実施)	さいたま市	15
	28	「都市デザインスタジオ」の最終発表会をアーバンデザインセンター美園で開催	さいたま市	05
	30	「初夏の船カフェ・運河クルーズ・ディナークルーズ」を開催(～6/5)	江東区	03
6月	4	港区地生(ちい)き人養成プロジェクト「芝浦港南百景」まちあるき取材編開催(6/25プレゼンテーション編)	港区	05
	10	COCプロジェクト代表者会議を開催	—	全PJ
	15～17	スマートコミュニティ Japan2016で二輪車転倒防止システムを展示	さいたま市	07
	18	江東産業まつりで写真撮影ロボット・あいざつロボットをデモ	江東区	01
	11～19	建築学科設計演習・ゼミナール作品展・公開講評会を深川東京モダン館で開催	江東区	03
7月	24	埼玉県庁の協力により地域経済分析システムRESAS講習会実施	埼玉県	06,17
	8	デザイン工学科「総合導入演習」でさいたま市職員による特別授業を実施	さいたま市	事務局
	16	地域木材業者等との連携で「新木場木まつり2016夏」を開催	江東区	12
	29	地域連携PBL「システム工学特別演習」最終報告会を実施	さいたま市、埼玉県、東京都 ほか	07,08,09,15,16,17,19
8月	17	キャンドルナイト@原市小学校実施	さいたま市	06
	22	大宮駅東口で市民参加型の「熱中症リスク発見ツアー」を実施	さいたま市	12
	9	ワカイ測量参与観察の実施	新潟県	18
9月	12	宇都宮大学企業交流会ポスターセッションに参加(10件)	栃木県	07,09,12,19 ほか
	24	豊洲水彩まつりで、ロボットによるクルーズガイドを実証実験	江東区	01,03
	24	さいたまトリエンナーレ2016 岩機会場展示(～12/11)	さいたま市	06
	25～25	芝浦運河まつりに芝浦海岸地区の都市模型を出展	港区	05
10月	13～15	諏訪メッセにてマイクロテクスチャのポスター展示、製品展示	港区、大田区	13
	6	埼玉県(県土整備部・都市整備部)連携講義を実施(土木工学科)10/6「応用統計学」、10/18「都市整備」、1/17「土木情報処理」	埼玉県	11,12
	12	コミュニティサイクルを使用した実態調査	さいたま市	07,15
	15	港区地生(ちい)き人養成プロジェクト「芝浦港南百景」みなとまち1・2開催	港区	05
	22～23	「たのせふるさとまつり」に参加(植樹、特産品開発・販売支援など)	南会津町	03
	19～20	JapanRobotWeek RT交流プラザでおもてなしロボットネットワークをデモ展示	江東区	01
	20	「熱中症リスク発見ツアー」の報告とまちづくり提案を大宮駅東口協議会例会で発表	さいたま市	12
	27	さいたま市ニュービジネス大賞2016で決勝進出、PJ08は学生起業賞受賞	さいたま市	07,08
	29	COC事業農業ミニシンポ「次世代農業者ネットワーク構築に向けて—in Suzu」開催	さいたま市、珠州市	08
	30	豊洲ワールドフェスタにて「美味しいおさかな」レシビコンテストを実施	江東区	16
11月	2	「地域共創シンポジウム」大宮キャンパスで開催 大学とまちづくり・ものづくり2016(さいたま市長講演) 「先進モビリティコンソーシアム(ADAM)2016秋の発表会」	さいたま市、埼玉県、江東区、港区 ほか	全PJ 07,19
	12	「建築設計演習Ⅲ」成果講評会を開催、江東区役所職員による講評を実施	江東区	02
	12	学生・障害者・住民の協働による「豊洲ユニバーサルデザイン探検隊」実施	江東区	20
	16	埼玉県(県土整備部・都市整備部)連携講義を実施(環境システム学科)「建設環境論」	埼玉県	12
12月	6	COCプロジェクト代表者会議を開催	—	全PJ
	8	HCG(電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループ)シンポジウム	さいたま市	17
	22	地域連携PBL「地域計画演習」発表会を交通関係官公庁や企業参加型で開催	江東区、東京都 ほか	11
	12	「土木工学総合講義」プレゼンテーション審査を地元住民参加型で開催	中央区	11
	16～20	「都市の土壌問題展」をみなとパーク芝浦で開催	港区	04
	18	地域連携PBL「建設工学演習・プランニング」すみだテクノプラザで発表会	墨田区	12
	21	「建築ゼミナール2」発表会で東京臨海地域の研究を発表	江戸川区	14
	21	「建築ゼミナール2」防災まちづくり提案を豊洲2・3丁目まちづくり協議会へ発表	江東区	14
	25	課題提供自治体・企業を交えて、「産学・地域連携PBL」最終報告会を実施	さいたま市、川口市、東京都 ほか	07,08,09,15,16,17
	30	「ベイエリアおもてなしロボット研究会ステップアップセミナー 2016」を開催	江東区 ほか	01
2月	15～17	ナノテク展2016にて、マイクロ・ナノコンソーシアムの研究成果を情報発信	江東区	10
	23	サテライトラボ上尾・研究発表会	さいたま市	06
	25	月島長屋学校にて「OPEN長屋」開催(3/4も開催)	中央区	03
3月	6	COC/COC+全PJ国シンポジウム・ポスターセッション参加	—	事務局
	11～20	プロジェクト演習「水辺の建築再生」成果をみなとパーク芝浦で展示	港区	05
	14	SEATUC 2017で農業スケジュールWebシステム論文発表	さいたま市	08
	16	第3回「COC学生成果報告会」を実施	—	全PJ
16	「先進モビリティコンソーシアム(ADAM)2017春の発表会」を実施	さいたま市、埼玉県、東京都 ほか	07,19	

COC主要活動年表

2017年度

月	日	活動内容	連携/活動地域	プロジェクト
4月	—	プロジェクト公募審査を経て18プロジェクト活動を開始(学内資金への移行)	—	全PJ
5月	30	「みその都市デザインスタジオ」でオリパラを視野に入れた仮設建築物を提案	さいたま市	05
6月	3	公開講座「2020年のおもてなし」と共にロボットアンケート実証実験を実施	江東区	01,03
	3,24	港区「知生き人(ちいきじん)養成プロジェクト」で区民を対象に講演	港区	05
7月	3~10	国際交流ワークショップ「東京のお年寄り」、タイKMUTTと合同開催	港区	05
	27	「新木場木まつり2017」区内会場(妙壽寺猿江別院)で開催	江東区	02
	28	「システム工学特別演習」最終報告回を実施	さいたま市、埼玉県ほか	07,08,09,14,15,16
8月	31~8/1	大宮地区、豊洲地区を対象とした事故軽減システムを課題提供企業に提案	江東区、さいたま市	16
	6	氷川参道周辺で「熱中症リスク発見ツアー」を彩の国環境大学と共同実施	さいたま市	11
9月	10	栃木県企業見学バスツアー(8/10、9/29、2/8)を実施	栃木県	(COC+)
	11~12	深川江戸資料館でロボット連動の実証実験デモを実施	江東区	01
9月	11	宇都宮大学企業交流会にて前期の活動成果をポスター展示	栃木県	(COC+)
	12	電子情報通信学会にて「対活ロボットシステムにおけるQoE推定フレームワーク」を発表	さいたま市	15
	19~21	国際学術シンポジウムFAST-zero '17にて2輪車転倒防止システム実機展示	さいたま市、川口市	07
	30	東電堀にて「豊洲水彩まつり」クルージングを実施	江東区	03
	30~10/1	足利キャリア合宿で観光改革アイデアプランを作成	栃木県	(COC+)
10月	5~10	木場公園にて「都市の土壌問題展」を開催	東京都	04
	1~2	「芝浦運河まつり」で、都市模型・パネルを出展(ロボットセミナーも開催)	港区	05
	14	公開シンポジウム「インテリアデザインとインフィル」開催	江東区	02
	28	「浦和美園まつり」で、学生が提案した仮設建築物が建設され、実証実験	さいたま市	05
	28	曳舟周辺地域にて、学生プロジェクトによる「防災遠足」を実施	東京都、墨田区	11
11月	31	「地域共創シンポジウム~大学とまちづくり・ものづくり2017」芝浦キャンパスで開催(港区長講演)	港区	全PJ
	6	「先進モビリティコンソーシアム(ADAM)2017秋の発表会」「ベイエリアロボティクスフォーラム オータムセミナー2017」芝浦キャンパスで共同実施	さいたま市、埼玉県ほか	01,07,08,16
	11	「建築設計演習Ⅲ」にて区内図書館および周辺の設計提案発表会	江東区	02
	23	学生、障害者の共同で「豊洲ユニバーサルデザイン探検隊」を実施	江東区	17
	24	「まちらぼおみや」にて大宮駅周辺地区のまちづくり提案を実施	さいたま市	06
	2~6	ロコモ予防に向けた高齢者の運動教室で、事後測定を実施	さいたま市	18
	1~3	芝浦祭にて南会津町のせ地区との共同ブース出展	南会津町	03
	29~12/2	国際ロボット展「RT交流プラザ」に出展	江東区	01
12月	29	埼玉県大学連携研究会にて「産学地域連携PBL」の成果(地域貢献の事例)を紹介	さいたま市、埼玉県ほか	事務局
	16	本学公開講座「農業を変える!芝浦テクノロジー」で、スマート農業を解説	さいたま市	08
	19	「国際産学地域連携PBL」にて川口市企業の技術力を生かす製品を提案	川口市	09
	21	「地域計画演習」で、東京ベイエリアを対象とした交通・まちづくり提案を発表	東京都、江東区ほか	10
	12~20	「国際産学地域連携PBL」で(11カ国78人)、外国人観光客への観光PR・おもてなしを提案	栃木県	(COC+)
	23~24	深川資料館通り商店街でロボットラリーアンケート実証実験を実施	江東区	01
	15	高齢者の運動教室参加者に対して、結果報告会を実施	さいたま市	18
1月	17	「建設工学演習・プランニング」で、曳舟駅周辺地域を対象にまちづくり提案	墨田区	11
	17	埼玉県職員による連携講義を実施(水辺再生、公園・緑地計画)	埼玉県	11
	18	「プロジェクト演習8」で芝浦型水辺建築を提案	港区	05
	22	「環境システム応用演習A/B」で、9地域を対象に都市計画・建築・環境提案を実施	さいたま市、上尾市ほか	—
2月	24	「産学地域連携PBL」最終報告回を実施	さいたま市、埼玉県ほか	07,08,09,14,15,16
	25	那須町インバウンド協会にgPBLの成果(観光サービスシステム)を提案	栃木県	07,14
	15~19	みなとパーク芝浦(防災とボランティア週間)で「都市の防災と土のう展」を開催	港区	04
	19	サテライトラボ上尾管委員会が高齢者団地に関する研究成果を発表	埼玉県、上尾市	06
	1~2	川崎国際環境技術展2018のさいたま市ブースにて、2輪車転倒防止システムの研究成果を展示	さいたま市、川口市	07
3月	1	大宮校舎にて、さいたま市と共同で2輪車転倒防止システムの実証実験実施	さいたま市、川口市	07
	2~3	「COC/COC+全国シンポジウム」ポスターセッション参加(宇都宮大学との共同)	栃木県	事務局
	15	大宮地区、豊洲地区を対象とした事故軽減システムの最終報告会を実施	江東区、さいたま市	16
	16~18	日本農業作業学会にて、農作物被害対策実験の成果を発表	さいたま市	08
	17~25	芝浦キャンパスで、デザイン工学部卒業/修士研究展「リケイのデザイン展」実施	港区	デザイン工学部
	19	「第4回COC学生成果報告会」開催	—	全PJ
3月	19	「先進モビリティコンソーシアム(ADAM)2018春の発表会」にて、活動成果を発表	さいたま市、埼玉県ほか	01,07,08,16
	25~29	芝浦港南地区「365DAYS」で、建築設計演習成果を展示	港区	05

～ Special Thanks ～

江東区、港区、埼玉県、さいたま市の連携自治体※の皆さま、
 キャンパス周辺で連携をいただいた中央区、墨田区、埼玉県内の各自治体の皆さま、
 福島県南会津町や石川県珠洲市など大都市圏との交流で連携した自治体の皆さま、
 これら地域に関わる中で連携をいただいた各企業・団体・住民の皆さま

※連携自治体：COC副申を締結した自治体

芝浦工業大学COC事業関連スタッフ

(2017年度時点で在席の主な関係者)

	所属・役職(年度)	氏名	
大学責任者	学長／複合領域産学官民連携推進本部本部長／工学部材料工学科教授	村上雅人	
	副学長／工学部土木工学科教授	守田優	
	副学長／システム理工学部電子情報システム学科教授	井上雅裕	
	複合領域産学官民連携推進本部副本部長／大学院工学マネジメント研究科教授	武田貞生	
	複合領域産学官民連携推進本部副本部長／工学部機械機能工学科教授(PJ代表者)	松日楽信人	
	COC責任者	COC事業推進責任者／大学院理工学研究科特任教授(PJ代表者)	古川修
COC責任者	地域共創センター部門長(豊洲)／建築学部建築学科教授(PJ代表者)	志村秀明	
	地域共創センター部門長(大宮)／システム理工学部環境システム学科教授('13～14年度PJ代表者)	中村仁	
	地域共創センター部門長(芝浦)／建築学部建築学科・デザイン工学部デザイン工学科教授(PJ代表者)	前田英寿	
	PJ代表者	建築学部建築学科教授	南一誠
PJ代表者	デザイン工学部デザイン工学科教授	橋田規子	
	システム理工学部環境システム学科教授	作山康	
	工学部共通学群英語科目教授	山崎敦子	
	システム理工学部機械制御システム学科教授	長谷川浩志	
	工学部土木工学科教授	岩倉成志	
	システム理工学部環境システム学科准教授	増田幸宏	
	デザイン工学部デザイン工学科教授	相澤龍彦	
	建築学部建築学科准教授	佐藤宏亮	
	工学部共通学群英語科目准教授	村上嘉代子	
	システム理工学部電子情報システム学科教授	間野一則	
	システム理工学部機械制御システム学科教授	伊東敏夫	
	工学部共通学群人文社会科目教授	中村広幸	
	工学部共通学群体育・健康科目准教授	石崎聡之	
	デザイン工学部デザイン工学科教授('13～15年度)	戸澤幸一	
	工学部電気工学科教授('14～16年度)	西川宏之	
	システム理工学部生命科学科教授('15～16年度)	越阪部奈緒美	
	大学院工学マネジメント研究科准教授('15～16年度)	平田貞代	
	建築学部建築学科教授('15年度)	西沢大良	
	事務局	研究推進室室長	坂井直道
		研究推進室次長	羽賀文雄
研究推進室研究企画課課長		小口裕司	
研究推進室研究企画課産学官連携・COCコーディネーター		杉野博之	
研究推進室研究企画課産学官連携・COCコーディネーター		平井一步	
研究推進室研究企画課		高島美由紀	